

北星学園大学 後援会だより

VOL.129



Hokusei Gakuen University
北星学園大学
北星学園大学短期大学部

発行日 2017年6月1日
発行者 北星学園大学後援会事務局
〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
電話 (011)891-2731
印刷 (社福)北海道リハビリ



学校法人北星学園は
創立130周年を迎えました。



社会の変化に対応して

学長 田村 信一

今年の冬は少し寒く、また12月と3月に雪が多かったために、春の訪れが遅くなりました。この原稿を書いている4月13日には、寒さが戻って吹雪となり、せっかく雪の消えたキャンパスが真っ白になっています。

さて、4月5日(水)に、ニトリ文化ホールで入学式を挙行することができました。当日は、緊張の面持ちながら晴れやかな笑顔の新生者が多数出席し、保護者・ご家族の皆様も数多くご臨席くださり、二階席まで立錫の余地なく埋まりました。おかげさまで、おごそかで盛大な入学式となったことを感謝申しあげます。

今年度の入学人数は以下の通りです(カッコ内は2・3年次編入学生数)。文学部英文学科132(15)、心理・応用コミュニケーション学科95(9)、経済学部経済学科176(6)、経営情報学科138(7)、経済法学科131(3)、社会福祉学部福祉計画学科86(5)、福祉臨床学科98(4)、福祉心理学科70(3)、短期大学

部英文学科134、生活創造学科94。この結果、すべての学部学科で定員を上回る学生を迎えることができました(定員の1.15)が、定員超過にたいして教育の質が低下しないよう注意するつもりです。

さて、入学式でも触れましたが、日本の高等教育進学率は2015年で57%となり、50%を超えたのが2010年です。ここ5年で5%も上昇したことになります。その背景には、不断のイノベーション(技術革新、多品種少量生産体制への移行、経営の弾力化、通信と輸送のネットワーク化といった経済社会の大きな転換がグローバル化とともに加速化し、不断の新しい知識・情報が飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」への移行が本格化したことにあります。今から20年ほど前には、「就職氷河期」という言葉が流行しまし

たが、平成28年度では、少子化に伴う人手不足や景気動向の影響もありますが、高等教育卒業者にたいするニーズはますます高まり、就職率の推計は90.6%になっています。本学の就職率も、3月末の時点で、昨年を大学で3ポイント、短大で5ポイント上回っています(昨年は大学96.6%、短期大学部94.7%でした)。こうした状況は、別の観点からみれば、学生に対する社会の評価も厳しくなっていることを意味します。社会に出てから急速な社会の変化についていけるように、しっかりと勉強してもらいたい、大学はそのように学生を育ててほしい、という要望が強くなっています。本学はそのような声にきちんと対応できるように体制を整備しつつありますが、皆様のご期待に添うことができるようさらに努力するつもりです。

短大生になると、自由と自主性が、大いに重んじられますが、多方面に亘る情報が氾濫している現代に於いて、正確な情報を身につけ、社会の動きを絶えず把握し、自己管理を徹底していただきたい。

4年間、2年間の学生生活が、長いか、短いかは、卒業後を見据えて、皆さんに平等に与えられた時間を有効に使う事が決め手です。北星学園大学の教育目標である「人間性・社会性・国際性」を養いながら、学生生活を謳歌してください。



平等に与えられた時間

後援会会長 深澤 秀則

現在日本全国で、大学、短期大学は総計で1,900校ほど設置されているとの事ですが1887年に米国の女性宣教師サラ・C・スミスが創立した本校が「世にあつて星のように輝き」の建学理念のもとで歴史と伝統を脈々と継承して、本年度、創立130周年を迎える総合学園となりました。北星学園の大学院、大学、短期大学部を志望し、見事合格した新入学生、及び編入学生の総計1,228名の皆さん、入学おめでとうござい

ます。4月としては、稀に見る好天気に恵まれるなかで執り行われた入学式に参列させていただきました。式では、田村学長より、大学は人間として人格を形成する場である等、大山理事長より大学の草創期からの歴史等、在学生代表より自分の可能性を狭めることなく学生生活を送ってほしい等、それぞれの方より歓迎の祝辞がありました。その後新入学生代表より、自らの選択で生活し社会の構成員である事を自覚し、夢や目標を実現するための大学生活を送る等の誓い

の言葉があり、入学生一同改めて、北星学園の一員になったことを実感した事と思います。大学は5年前に五十周年を始めて、更に未来へとつながる歩を始めています。短期大学部も開学以来六十五有余年を経て、現在では道内の短期大学のなかで、屈指の歴史と伝統、実績のある学校となっています。

厳しい勉強に明け暮れた皆さんは、今、入学した喜びと、高校時代の様々な規制からの解放と相まって、爽やかな笑顔で、北星学園のシンボルであり、校花でもあるライラックが咲き乱れている、開学以来最高に教育設備の整ったキャンパスで、様々な思いや期待を胸に抱きながら、良き友との出会いや、学業、サークル活動等で、学生生活を始めている時期でしょう。大学生、

ご入会いただき御礼申しあげます。後援会として、学生達に「北星学園大学に入学して良かった」と思われる、教育活動援助に誠心誠意努力しますので、御支援、御協力宜しくお願い致します。

◆◆◆ 後援会とは? ◆◆◆



後援会からの寄贈図書(本学図書館内)

北星学園大学後援会は、在学生のご父母、卒業生のご父母及び同窓生を会員として構成されており、今年で設立33年目になります。

本会の目的は、北星学園大学・短期大学部における教育、研究活動の充実と発展に寄与することであり、「北星学園大学・短期大学部のサポーター」として活動を行っております。一例としては、図書館への図書等の寄贈、先生方の学術出版補助、国際交流経費補助、学術講演会や学会に対する補助などです。学生各種活動補助については、全国大会に出場する学生への補助や学生の就職活動支援、就職セミナー開催、大学祭への援助、奨学金補助、サークル活動で使う備品等の購入なども行っています。

また、ご父母向けに毎年地区別父母懇談会を道内7会場(札幌・函館・苫小牧・北見・旭川・帯広・釧路)で開催し、本学の教育方針やカリキュラムについての説明、学生の修学状況等について個別面談を行っています。

後援会が開催する各行事は、ご父母の皆様が本学について知る良い機会となっておりますので、多くの方のご出席をお待ちしております。

なお、『後援会だより』は年4回発行し、会員の皆様へ大学の情報をお届けしております。大学ホームページからもご覧いただけます。

※後援会に関することは右記QRコードからご確認ください。

新入生からの言葉 大学生活にむけて



文学部 英文学科

藤田 彩花 さん

大学に入学してから約1週間が経ち、新しい生活にも少しずつ慣れてきました。

今までの学校生活とは全く違う環境で過ごす毎日は初めての経験が多く、とても新鮮です。

大学生活の多くは、自分で考えなければいけないので、自分の選択次第で全てが決まります。担任の先生が全ての連絡をしてくれていた高校とは違い、はじめはとても戸惑いました。しかし、何をどうしたらいいのかさえ分かっていなかった私に、先輩方は履修登録やサークル活動、学校生活の事について詳しく丁寧に教えていただきました。そんな先輩方や友人のおかげで、最近はとても充実した毎日を過ごせています。

私には幼稚園の頃からの将来の夢があります。その夢を叶えるためには、これからの4年間をどう過ごしていくかが重要で、全てが自分次第で良い方にも悪い方にも変わってしまうものです。ですから、私は絶対に意義の有る4年間にしていくために、自分でしっかりと考え、将来の夢を叶えるために勉学に励んでいきます。

自分が学びたい事を学び、将来に向けての力をたくさんつけることが出来る今の環境と、それを応援してくれる両親への感謝の気持ちを忘れずに精一杯努力し、充実した大学生活を送っていきたくです。



経済学部 経済学科

笹谷 将吾 さん

入学してからの約2週間は、不安な気持ちで一杯の中、履修登録や授業などとやらなければいけないことがたくさんありました。しかし、履修登録などわからないことは頼れる先輩が親切に教えてくださり、だんだんと不安な気持ちはなくなってきました。今はまだ慣れていないことがたくさんありますが、友達も少しずつ増えてきて、充実した大学生活になってきたと実感しています。

履修登録期間の授業のガイダンスが終わり、これからは本格的な授業が始まります。私は、4年間の大学生活で少しの時間も無駄にせずに勉強や部活、バイト、友人関係など充実した生活を送りたいと思っています。そのためには、何事にも目標を持つことが大切だと考えています。たとえ、小さな目標だとしてもそれがあるだけで、流されずに自分の意思で行動できると思います。他にも様々な経験をして自分に刺激を与えて、人生にプラスになるようなことを吸収していきたいと思っています。

恵まれた環境で大学生活を送れることに感謝し、北星学園大学での4年間で一人の大人として自立し、社会に出ても恥ずかしくないような人に成長できるように努力していきたいと思っています。



社会福祉学部 福祉心理学科

高木 梨津 さん

北星学園大学の創設に携わった新渡戸稲造の著書『武士道』にはこんな名言があります。

「人は誰もいっただん安定した世界に身をおくと、精神もそれに倣って俗化し、理想を忘れて段々怠惰になっていくようだ。・・・そのぬるま湯の心地よさに何時しか慣れて・・・墮落した生活を送るようになっていくのである。」

入学してまだ間もないこの時期は、これから始まる4年間に期待と希望で胸を膨らませている時期です。今は真新しい生活に感じますが、慣れてきた頃に「面倒くさい」と感じることもあるかもしれません。新渡戸の『武士道』は100年以上前に著された本であるので、おそらくこう感じることは人間の本能なのだろうと私は思います。ですが、そう思った時にこそ、新たな道が開かれる可能性を信じて、もう一踏ん張りして物事に取り組んでみようと思います。いつもと同じ環境下であっても、毎日新たな刺激を求めて、理想を忘れず常に前進できるよう、努力を惜しむことなく勉学に励み、サークル活動に積極的に参加し、大学内外問わず多くの人と関わっていきたくです。そして、この北星学園大学で多くの経験を積み、物事を正しく捉え、その時々にはふさわしい行動ができる柔軟性を持った人間になりたいと思います。



短期大学部 生活創造学科

遠山 玲依 さん

入学前のオリエンテーションや入学式も終わり、授業が始まりました。4月に入ってからのというもの、毎日が目まぐるしく、これを書いている今がまだ4月の前半であるということに驚きを覚えています。新しくできた友人たちと慣れない大学の仕組みに頭を悩ませ、助け合いつつ、大学生活を送りはじめました。中学や高校とは比べものにならないほど広い校舎や、高校の2倍もある授業時間に、まだ戸惑いを覚えています早くこの生活に慣れたいと思っています。

私がこの北星学園大学にいられるのは、2年間です。勉強だけではなく、就職についても考え生活していかなければならない2年間は、きっと思っている以上に忙しいのでしょう。ですが、「ただ忙しいだけの大学生活だった」とはならないよう、大学生が今しかできないことも楽しみたいです。もちろん、やるべきことはしっかりとやります。学生の本分は勉学ですから、重きを置くのはそちらです。その上で自分の興味があることに積極的に取り組んだり、資格を取るなど、さまざまなことに挑戦したいと思っています。後悔することにならないよう、楽しんで、一生懸命大学生活を送っていきたくです。

私はまだ学食のメニューを知りません。まずはそんな小さな「興味」から、消化していきたくと思います。

組織紹介

学長	田村 信一	国際教育センター長	ピーター・グレイ
副学長	鈴木 剛	学生相談センター長	嶋澤 あかね
学生支援委員長	鈴木 剛	学習サポートセンター長	中村 和彦
スミス・ミッションセンター部長	日高 嘉彦	総合情報センター長	金子 大輔
文学部長	日高 嘉彦	社会連携センター長	篠田 優
文学研究科長	日高 嘉彦	心理臨床センター長	西山 薫
図書館長	日高 嘉彦	広報委員長	濱田 保久
経済学部長	原 正衛	アクセシビリティ支援室長	田実 潔
経済学研究科長	原 正衛	事務局長	桑原 大幸
社会福祉学部長	田中 耕一郎	事務局次長	山本 一博
社会福祉学研究科長	田中 耕一郎	大学事務部長	笠松 英雄
短期大学部長	竹村 雅史	法人課長	越江 真理
総合研究センター長	竹村 雅史	IR広報戦略室長	越田 実
学長特別補佐	大原 昌明	総務人事課長	今 康昭
英文学科長	長谷川 典子	財務課長	高橋 章
心理・応用コミュニケーション学科長	田辺 毅彦	教育支援課第一課長	前村 俊一郎
経済学科長	中村 一浩	教育支援課第二課長	佐々木 薫
経営情報学科長	西脇 隆二	教育支援課第三課長	宗石 依久子
経済法学科長	秋森 弘	学生生活支援課長	遠藤 潤
福祉計画学科長	岡田 直人	国際教育課長	川島 善孝
福祉臨床学科長	栗山 隆	就職支援課長	鈴木 克知
福祉心理学科長	田澤 安弘	社会連携課長	五十嵐 明
短期大学部	藤原 里佐	研究支援課長	田中 正博
英文学科長	藤原 里佐	情報システム課長	高野 正明
キャリアデザインセンター長	岩本 一郎	司書課長	宮川 淳子
入学試験センター長	岩本 一郎	入試課長	桐山 城太郎

入学式開催

4月5日(水)午後1時より、2017年度入学式がニトリ文化ホールで開催されました。

当日は天候に恵まれ、多くの方がご出席くださいました。そのなかで、大学3学部と短期大学部、大学院を含めた新入生総数約1,200名が、緊張した面持ちで晴れの日を迎えました。オルガンの前奏によって始まり、一同による讃美歌「いつくしみ深き」の合唱の後、チャプレンが聖書朗読と祈禱をされました。学長の式辞、理事長の祝辞、在学生代表からの歓迎の言葉と続き、その後、大学・短期大学部の各新入生代表が、それぞれ誓いの言葉を述べました。谷川俊太郎氏作詞の学歌が吹奏楽部とチャペル・クワイアにより披露され、その後再び一同で讃美歌「真実に清く生きたい」を合唱しました。最後は、チャプレンによる祝禱と、オルガンの後奏によって約1時間の入学式は無事終了いたしました。式を終えた新入生達は、ほっとした様子でご父母の方と楽しそうに会話をする姿や会場の前で記念撮影をする姿などが数多く見られました。その表情には、これから始まる北星学園大学・短期大学部での生活に対する大きな希望が満ちていました。

大学生活の中にはたくさんの可能性が広がっています。自らの可能性を最大限活かし、そこで得たものが一生の宝物となるように、充実した日々を過ごしていただけるよう願っております。



◆ご相談ください◆

～学費納入について～

授業料等学費につきましては、毎年、期限までの納入をお願いしているところですが、学費に関する諸制度についてお知らせいたします。

詳細は今年度のキャンパスガイド45～48頁(学生への配付冊子)、及びキャンパスガイドWEB(<http://cgw.hokusei.ac.jp/>) → 「奨学金・学費・実習費」 → 「学費とQ&A」 「奨学金」をご参照ください。

■各種減免制度

○兄弟姉妹等同時在学減免

兄弟・姉妹等で同時に2名以上が1年を通じて在学されている場合、そのうちお一人以外の方の「教育充実費」及び「後援会費」を全額免除いたします。願出にあたっては、戸籍謄本の添付をお願いしております。財務課までお申し出ください。

○身体・精神障害者減免

学部、大学院又は短期大学部の学生で身体障害者手帳もしくは精神障害者手帳をお持ちの場合は「教育充実費」の2分の1を免除いたします。財務課までお申し出ください。

○修学困難者減免

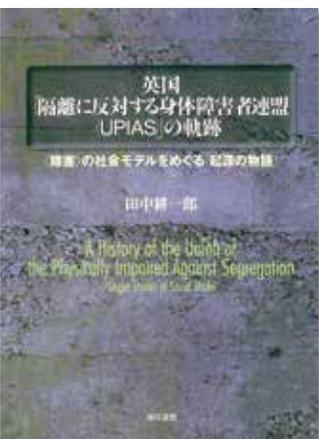
学費負担者(主として家計を支えている者)の死亡・病气・自己都合以外の理由での失職(解雇・倒産等)や災害等により経済的に修学が困難になった学部又は短期大学部の学生に対する減免制度です。それぞれの状況により条件が異なりますので、**学生生活支援課**までご相談ください。

■学費延納制度

万が一、家計の事情等で期限までの納入が困難な場合は、学費等延納制度により納入期限を延長することが可能です。**財務課**までご相談ください。

学術出版の紹介

『英国「隔離に反対する身体障害者連盟」の軌跡』(現代書館)の紹介



社会福祉学部 田中耕一郎 教授

2016年度の大学後援会学術出版補助をいただき、この度、標記拙著を上梓することができました。後援会のご援助に深く感謝申し上げます。

現代の国内外の障害者運動・障害者政策・障害者支援の分野において「障害の社会モデル」という考え方が重要な鍵となっていますが、この社会モデルのアイデアの起源には、1970年代初頭に結成された英国の小さな障害者組織、「隔離に反対する身体障害者連盟」(UPIAS)の活動がありました。

拙著は、筆者が2011年度の国外研修(リーズ大学・障害学センター)において収集したUPIASの一次資料と、UPIASの元コアメンバーへのインタビュー・データをもとに、組織の結成から解散までの軌跡と理論形成を辿ったものです。

近年、日本の障害学や障害者福祉研究において、日本固有の「障害をめぐる思想」を発掘する作業として、1970年代から80年代にかかる障害者運動の思想と活動の再評価が行われていますが、英国障害者運動においてYear Zero(紀元元年)と評されるUPIASの軌跡を辿る拙著もまた、英国固有の「障害をめぐる思想」の発掘作業だったと思います。

隔離と同化圧力に対する抗いの中で、UPIASがマジョリティ社会に突き付けた根源的な問いは、半世紀を経た現在もなお、(残念ながら、というべきでしょうが)有効な問いであり続けています。

大学後援会からのプレゼント



後援会では毎年、卒業生と新入生の皆さんに記念品を贈呈しております。2016年度は卒業生に『卒業記念PHOTOBOOK』を贈りました。ゼミやクラス、サークル集合写真を中心に掲載し、卒業後も母校での思い出を振り返ることのできる1冊となっています。

また、新入生には「カード型USBメモリ&ステープラー」を贈りました。USBメモリには北星学園大学のチャペルの写真がプリントされており、ステープラーには校章がデザインされています。箱も含め、全てオリジナルの製品となっています。今後の大学生活の中でぜひご活用ください。

2017年度 行事予定

3月	31日(金) オリエンテーション (~4月8日)	7月	1日(土) 第1回札幌地区父母懇談会 (大学3・4年次、短大部2年次対象)	10月	7日(土) 大学祭(~10日)
	4日(火) 定期健康診断(~8日)		28日(土) 第2回札幌地区父母懇談会 (全学年対象)		
4月	5日(水) 入学式	8月	28日(金) 前期授業終了	12月	31日(火) 宗教改革記念講演会
	7日(金) 履修登録開始(~13日) 前期授業開始		31日(月) 前期定期試験(~8月8日)		1日(金) 『後援会だより』第131号発行
	2日(火) 学園創立記念日(授業実施日)		1日(火) 『後援会だより』第130号発行		15日(金) クリスマス礼拝
5月	8日(月) スミス・ミッションウィーク (~12日)	9月	26日(土) 旭川地区父母懇談会	1月	22日(金) 年末授業最終日
	17日(水) 後援会第1回役員会		27日(日) 北見地区父母懇談会		9日(火) 年始授業開始
	27日(土) 後援会総会・懇親会		2日(土) 帯広地区父母懇談会		17日(水) 後援会第2回役員会
6月	1日(木) 『後援会だより』第129号発行	9月	3日(日) 釧路地区父母懇談会	3月	22日(月) 後期授業終了
	2日(金) 体育祭(~4日)		9日(土) 函館地区父母懇談会		23日(火) 後期定期試験(~30日)
			10日(日) 苫小牧地区父母懇談会		6日(火) 卒業生名簿発表
			15日(金) 後期授業開始		14日(水) 卒業礼拝
			29日(金) 前期末卒業式		15日(木) 卒業式 『後援会だより』第132号発行

2017年度

地区別父母懇談会のお知らせ

今年度の地区別父母懇談会は右表の日程で開催いたします。大学の近況報告の他、個人が履修している授業科目等がわかる「履修登録票」や「授業科目別出席状況」、前年度までの修得単位数や評価がわかる「成績通知票」を用意し、担当教員と個別に懇談する時間を設けております。また、就職関係についての個別懇談も就職支援課職員により実施いたします。地方会場では、昼食を兼ねてご父母同士の懇談もごさいます。

地区別父母懇談会は北星学園大学後援会の事業の一環で、皆様からの会費により運営しております。毎年、参加された皆様からは大変ご好評をいただいております。今年も多くの皆様のご参加をお待ちしております。

ただし、個人情報保護に関する法律により、成人となった学生本人が所定の手続きにより同意しない旨申し出た場合は、修得単位数等、修学状況に関する情報を保証人にお伝えすることができないこともあります。ご了承ください。
※詳細につきましては、本学ホームページまたは、6月中旬に送付する案内文書にてご確認ください。

※お子様を同席させての三者面談は行いません。

※大学3・4年次と短期大学部2年次のご父母対象の7月1日(土)札幌地区父母懇談会の申込締切(6月12日)が近づいております。参加ご希望の方はお忘れなくお申込み願います。

右記QRコードから申込フォームにアクセスできます。



7月 1日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(大学3・4年次、短期大学部2年次対象)
8月26日(土)	旭川会場	旭川グランドホテル
8月27日(日)	北見会場	ホテル黒部
9月 2日(土)	帯広会場	ホテルグランテラス帯広
9月 3日(日)	釧路会場	釧路プリンスホテル
9月 9日(土)	函館会場	ホテル函館ロイヤル
9月10日(日)	苫小牧会場	グランドホテルニュー王子
10月28日(土)	札幌会場	北星学園大学校舎(全学年対象)



就職関係相談会場(札幌)



全体会の様子(北見)



個別懇談の様子(札幌)

あ と が き

北海道も初夏の爽やかな風を感じられる季節となりました。キャンパス内は、学生たちが楽しそうに行き交う姿であふれています。
さて、7月1日(土)より地区別父母懇談会が始まります。修学・就職状況について個別に対応しておりますので、これまで出席したことがない方も是非ご参加いただければと思います。(後援会事務局 西藤・大津)

北星学園大学教育振興寄付金で芳名

募金のご協力に深く感謝申し上げます。

寄付 2017年2月1日から4月30日まで(敬称略)

☆大学・短期大学部

(父母・同窓生・一般・旧教職員・理事)

丹野千枝美	小坂 淳司
小村知江子	船津 秀樹
浅岡 雅子	大山 綱夫
酒井 玲子	

留学生ホストファミリー

大募集!

北星学園大学では交換留学生のホストファミリーを募集しております。

受け入れていただくのはアメリカとカナダからの留学生ですが、英語は必ずしも条件ではありません。受け入れ期間は1学期(およそ13週間)で、その間の食住費として一定額の補助をさせていただきます。多くの留学生が日本で一番印象に残った体験としてホームステイを挙げています。ホストファミリーとして登録していただきますと、春と秋に受け入れについての照会を大学からさせていただきます。ご都合の良い場合には受け入れをお願いするというシステムになっています。

また、イギリス、カナダ、スペイン、スイス、韓国、台湾、中国、インドネシアとも交換留学しており、これらの交換留学生については、例えば、2泊3日の宿泊体験プログラムなど実施していますので、合わせて募集しております。

皆様のご家庭でも留学生を迎えて国際交流してみませんか?

本学のホームページから国際教育センターのサイトをご覧ください。

ご協力をお願いいたします。

お問い合わせは下記まで...

北星学園大学 国際教育課
電話(代表): (011) 891-2731 FAX: (011) 895-2500
ホームページ: <http://www.hokusei.ac.jp/international/homestay/>